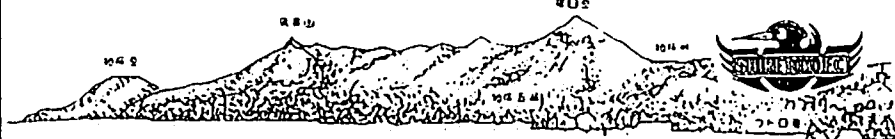


# 知床の森から



北見管林支局  
知床森林センター

☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町1番地  
☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

## 夏は登山 /

## 人気ある知床 硫黄山新噴火口登山

第19回「森林レクリエーション・in知床」

知床森林センターの夏のイベント「知床硫黄山新噴火口登山」は8月21日・27日の二日間実施されました。人気イベントということで今年は一日増やしましたが、それでも応募者が殺到しました。

この硫黄山は知床半島の背後部にある1,563mの山で、記録によれば過去4回噴火し、最新の噴火は昭和10～11年です。いまでも中腹部で数箇所噴煙を上げている活火山で、今回のイベントはそんな噴火口の一つで海拔約650mの地点です。

登山は登山口から急な登りで、そのあと背の低いミスナラ・ナナカマド・タケカバなどの樹木のトンネルです。ハイマツもすぐ姿を見せ道沿いにはイソツツジや赤い実をつけたアカミノイヌツグ・白い実をつけたシラタマノキ・ノリウツギ(サビタ)の白い花が見られます。斜面を登り稜線に上がると眺望が突然ひらけます。眼前に知床の森林が幾重にも広がり、オホーツク海には白い航跡を曳いた漁船が見えます。ここは歓声の上がる場所です。これからのコースは安山岩質の巨岩の側や危険な急斜面の側を通り、四つん這いの岩場登りやザクザクと崩れるガレ場登りを経て目的地に着きます。

遅れてやってきた夏の暑い日差しの中、みなさん汗で全身が濡れ、ゆっくり登ったとはいえ平均傾斜15° 距離約1.3kの1時間10分は決して楽ではなかったと思います。

昼休みはこの新噴火口の側でとり、噴き出している熱湯で茹でた卵を美味しく、近くを探索したり、写真を撮ったりしながら思い思いのんびりと過ごしました。

帰りの所要時間は40分、ゆっくり下ったつもりでも知らず知らず早足になっていたのでしょうか、みなさん汗だくとなっていました。

まことに暑い夏山登山でしたが、それでも念願の登山ができ、変化とスリルに富んだコースを体験した充実感で、みなさんほんとうに良い表情をしていました。



## 都会っ子たち知床の自然を体験 (受託事業)

学習研究社企画の「秘境知床と釧路湿原の体験教室」『土曜日には親子で森へ行こう』と銘打ったイベントが、7月25日から三日間北海道東部で実施されました。知床森林センターが受託事業として対応したのは26日で、場所は「自然観察教育林」です。参加者は大阪東京から親子25名で、うち7名が子供さんでした。

みなさんは知床の森林は初めてで、次々に展る森の様子に興味の目を向けておりました。

霧の滝とそれを見下ろすように咲く見事なシャクナゲは一幅の画のようです。滝の上の瀬ではさすが子供たち、スポンをたくし上げ冷たい水と戯れていました。昼食はすっかり水が干上がりエゾシロネやシタ類の草原と化した「ボンホ口沼」でとり、のんびり寛ぎました。限られた時間でしたが知床の森林を楽しんだようです。



### ★今年も賑わった知床半島★

今年の知床は流氷の長逗留、親潮のパワーのせいで冷涼な夏となり、結果的に8月後半から1か月遅れの暑い日が訪れるありさま。それで7月に入ると知床を訪れる観光客はうなぎ登りで、ミツバチ族も交え知床は大賑わいでした。

ウトロにある国設キャンプ場も大小様々なテントが色彩豊かに張られて、利用客も例年より多いようです。北国の一夏の思い出に知床を訪れた観光客のみなさん、夢とロマンはかなえられたでしょうか。



第18回「森林レク・in知床」

## ちびっ子たち溪流と湖を楽しむ

8月11日、子供たちを対象とした『知床硫黄山新噴火口登山』でしたが、台風7号の影響で登山を断念し、自然観察に切り替えて実施しました。参加者は北見・斜里から6才～11才22名と保護者を交え27名でした。行きの車中で「知床半島ができるまでの紙芝居」を見たり、動植物の説明を聞きながら知床大橋に着きました。

約70mの橋上から谷底を怖く見下ろしたあと、カムイツカの溪流では素足で水と戯れました。そのあと車中からエゾシカやキタキツネを見ながら知床五湖に着き、群れ泳ぐフナやまわりの森を観察したりして、夏休みの一日を意義あるものになりました。

